2026年3月発行

NALC Holland Newsletter vol.18

皆さん2026年元旦の花火、鑑賞されましたか？

僕は家内の親戚の住むWilnisの村で新年を迎えました。

村では例年のようにあちらこちらで花火が盛大に打ち上げられていました。残念ながら年始の花火は今回が最後となりました。とはいえ、来年も所々で違法と知りながらも打ち上げる若者たちはいるでしょう。一握りの人たちが危険な威力ある違法花火を爆発させ、それをやめさせようとする警察に暴力をふるいますます危険な状況になって行きました。市民も巻き込まれることもありました。それに終止符を打つためにとられた処置であるので仕方のないことではあります。

現在、力を持った国のリーダーが自分の国（自分の権力？）を守るため罪のない他国（世界）を不安な状況に落とし込めています。

助け合う気持ちを大切にしてください。2026年も皆さんにとって良い年でありますように。

NALC Holland　代表　岩﨑国治

Zonnehuis Amstelveen イベント「世界の日」

岩﨑 国治

2025年9月25日 木曜日にAmstelveen市にあるZonnehuis Amstelveenにてイベント「世界の日」が開催されました。施設の住人は、旅行に行くことができません。そういう人たちに少しでも外国の雰囲気を味わい楽しんでもらおうという企画です。JWC の皆さんとNALC Hollandの会員もこのイベントに協力しました。

この日は天気も良く会場にはたくさんの人が集まっていました。広間には日本をはじめドイツ、ベトナム、オランダ、メキシコ、スリナム、ハンガリー、インドネシア、イタリア、アメリカ、モロッコのブースが並び、それぞれの国を代表する食べ物が並び、Zonnehuis の住人、ボランティアの人たち、施設関係者、訪問された皆さんが、思い思いに色々な味を楽しみました。

また、JWC の皆さんの楽しい盆踊り、踊っている人も見ている人も思わず笑顔になりました。JWC「さくら」の、心に響く演奏も皆さん聞き入りました。カーペンターズの歌が流れると施設の住人の方たちの中には、歌が流行った時の思い出が浮かんできたのか、演奏のほうに目を向け懐かしそうに聞き入っていました。

NALCHolland の日本ブースも人気で「これ美味しいから孫にももらってもいいですか？」と嬉しそうに車いすに座った膝に乗せていたり、何回もきて「今度はこれね」とニコニコと食べていた人も居ました。このイベントは、多くの人の協力で大成功でした。

シニア交流会　音楽療法ニュースレター Vol.1

音楽療法と共存の交響～心が響きあう未来へ

音楽療法とは、私たちの心と体の健康を支える専門的なアプローチです。音楽を「聴く・歌う・演奏する・動く」といったさまざまな活動を通じて、人々の感情や思考、身体の状態に働きかける方法です。重要なのは、演奏や歌の上手さではなく、音楽から得られる体験や、その過程で生まれる感覚やつながりです。こうした活動は、医療や介護、教育の現場で幅広く活用され、個々の心の状態を整えたり、言葉にしづらい感情を表現したり、他者との交流を促進したりする助けとなっています。

音楽療法の効果は、多方面にわたり、気持ちを沈静させることや、ストレスの軽減、呼吸や心拍数を調整してリラックスさせること、注意力や記憶力の向上、グループでの交流や自己表現の場を提供することなどが挙げられます。例えば、認知症の方が懐かしい歌を歌うことで記憶や感情が呼び覚まされ、会話や笑顔が増えるケースがあります。また、パーキンソン病の患者さんがリズムに合わせて歩くことで歩行の安定性が改善されたり、声を出す練習を通じて発話能力が向上したりする例もあります。さらに、新生児集中治療室（NICU）では、優しい音楽が赤ちゃんの呼吸や睡眠の質を高め、親子の絆を深める役割を果たすことも知られています。このように、音楽は脳全体を刺激し、運動機能や認知機能の維持・向上や気分の調整を促す効果があります。楽器を演奏したり歌ったりすることで、こうした効果はさらに増し、不安感や痛みを和らげるとともに、社会的なつながりを深める力にもなります。音楽は、私たちが持つ感情表現や人と人との交流を豊かにし、生活の質を向上させる大きな要素です。

今後は、音楽療法の理解と普及を進めるとともに、医療や教育の現場での導入を推進し、多くの方々にその価値を伝えていきたいと考えています。さらに、文化の橋渡しとしても役立てることを目指し、さまざまな講演やワークショップを通じて、音楽の持つ力を広く伝えていきたいです。

著者：川合好美（かわい よしみ）
ピアニスト・作曲家／音楽療法士
（NICU・NMT-F™）

愛知県出身。2000年よりオランダ在住。アムステルダム近郊にてピアノアカデミー i-arts universeを主宰、演奏活動・教育・音楽療法を幅広く行っている。2024年、オランダ・ArtEZ芸術大学大学院（音楽療法学部）修了。現在は新生児集中治療室（NICU）における音楽療法 (RBL) および神経学的音楽療法 (NMT-F™)の専門資格を有し、乳児から高齢者まで多様な対象に音楽療法を提供している。これまで認知症、パーキンソン病、ASD、ADHD、NICU入院児への音楽療法の実践や研究に携わり、演奏家としての経験を活かした即興的かつ個別性の高いアプローチを得意とする。現在は、講演・ワークショップなどを通じて音楽療法の普及にも力を入れている。NVvMT（オランダ音楽療法協会）、FVB（専門療法士連盟）、IAMM（国際音楽医学協会）に所属。

訪問看護・介護 ほっとニュース

葉子

NALCのみなさん、お久しぶりです。そして初めまして、ヨウコ（葉子）です。

オランダで訪問看護をさせてもらっている私の体験のなかで、去年みなさんに88歳のワーナーさんの「ほっとニュース」をご紹介しました。

今回はさらに高齢の92歳になるおばあ様ヤンセンさんのお話しです。この方にまつわるトピックスは数多いのですが、その中のひとつの話題についてみなさんにご紹介しましょう。

なんと介護テクノロジーについてです。今の時代、介護の世界でも少しくらいはハイテク機器を使いこなして時代の流れに乗っていこうというのが最近のトレンドになっています。いえ、少しくらいではなく、大いにハイテクを使って人手不足を補い、かつ人件費も削減できるようにと、医療保険会社や国の施策が掲げられています。

そのうちの一つがタイニーロボットという会社が開発した「テサTessaちゃん」すでに2015年から訪問看護・介護組織などに紹介され実用化されているロボットで、これをうちの利用者さんにも使ってもらおうということになり、選ばれたのがヤンセンさん。

4年ほど前にご主人を亡くされ、そのショックで一時期認知症状が著しかったのですが、その後徐々に症状が改善し、現在まだ独り暮らしをしています。5人の息子たちの支援と私たちの1日2度の訪問、そして掃除をするヘルパーさん、さらに週1度生活支援者で、彼女の一人暮らしが成り立っているのです。かなりの人たちが出入りしているのですが、やはりご主人のいない暮らしでは孤独感が強く、自分では食事の用意をする気力がない現状があります。

そこでテサちゃんに1日何度かヤンセンさんに声かけをしてもらおうという試みが始まりました。テサちゃんは鉢を2つ上下に重ねた型で丸い眼があり、頭の上には花の飾りがあるという不思議なロボット。予め時刻と声かけの質問内容を入力し、さらには利用者さんの回答に答えるという仕組みになっています。

例えば、朝8時半「ヤンセンさん、おはようございます。よく眠れましたか？」とテサちゃん。それに彼女が「はい」と答えるとする。するとテサちゃんが「それはよかった。ではよい一日を」と返答する、という応対ができるわけです。10時になると「コーヒータイムですよ。コーヒーを入れて楽しみましょう」とまた声掛けする。それによって軽度認知症の方の行動を促すというのがテサちゃんのお仕事。

しかしながら、このヤンセンさん、テサちゃんに返す言葉がはっきりせずにテサちゃんは戸惑う。そしてヤンセンさん、テサちゃんがいつも同じことばかりしか聞かないので、「変なお人形！」と言って、慣れた頃には、ほぼ無視状態に……。

この続きが2026年夏号に記載されます。
お楽しみに！

ヤンセンさんと窓際のサテちゃん